

100 世界遺産の旅 (84)

老人と海の舞台を巡る

USA イリノイ州シカゴ生まれのアーネスト・ヘミングウェイは、寒冷地を嫌い、トロピカルなフロリダ州のキーウエストや、キューバの首都ハバナを愛した。今回の旅では、ハバナにあるヘミングウェイ博物館と、ゆかりの場所を訪ねてみた。



ヘミングウェイ博物館 (Finca La Vigia) ハバナ

最初にヘミングウェイが、ハバナを訪れたのは1928年、当初はホテル住まいで、オビスポ通りのHotel Ambos Mundosを定宿にしていた。その501号は、特別室として有料公開されている。1940年に出版された「誰がために鐘は鳴る」で得た印税で、ハバナの南にある豪邸 Finca La Vigia を購入した。現在、キューバ政府に寄贈されて博物館になっている。そこを訪れたが、テニスコートやスイミングプールがある広大な敷地の豪邸で、人気作家だった彼を偲び、多くの観光客が、見学に来ていた。室内へは入れないので、窓から各部屋を覗くわけだが、読書家だったらしく各部屋には、多くの書籍棚が並べられ、蔵書で溢れていた。



PILAR号、ヘミングウェイ博物館、2018年2月

PILAR号は、ヘミングウェイの愛艇で、博物館の庭に展示されている。KEY WESTの文字が読め

るところから、フロリダより持ち込んだボートであろう。このPILAR号での釣りを題材にして、1954年ノーベル文学賞の「老人と海」を書き上げた。今回、訪問できなかったが、邸宅の北西にあるカリブ海に面したコヒマル港よりトローリングで、カジキマグロを追いかけたようだ。釣り三昧の日々であったが、1959年のキューバ革命で追われてUSAへ帰国後、1961年に61歳で他界した。



フロディータ、ハバナ、キューバ、2018年2月

キューバのハバナにあるヘミングウェイ馴染みのバーとしては、ラ・ボデギータ・デル・メディオとフロディータが有名で、その2軒とも訪れた。フロディータのカウンターにはヘミングウェイの実物大の銅像が置かれ、肩を並べて記念撮影するのが、客の狙いである。そこで、一杯US\$6のラムベース「パパ・ヘミングウェイ」を頂いたが、度数の高いカクテルと思いきや、飲みやすい女性向きのフローズン・カクテルであった。



ヘミングウェイの家、フロリダ、1997年11月

1997年、USAフロリダ州のエバーグレイズ国立公園を覗いた後、車で地の果てまで続く海道を走り、USA最南端のキーウエストを訪れた。そこにヘミングウェイの家があり、彼がこよなく愛したカリブ海を臨む絶景の地である。ヘミングウェイが、スペインから帰国後、全財産を叩いて購入したのがヘミングウェイの家で、現在、博物館として公開されている。本土最南端のキーウエスト沖では、数隻の豪華客船が行き交い、その優雅な船影は、今も脳裏に残存している。又、道中、車のタイヤがパンクし、難儀した事も思い出される。